洋１３－７２

「アフター・アース」　　✿✿✿✿

２０１３（平成２５）年６月１２日鑑賞＜ＧＡＧＡ試写室＞

監督：Ｍ・ナイト・シャマラン
脚本：ゲイリー・ウィッタ、Ｍ・ナイト・シャマラン
製作：ケイレブ・ピンケット、ジェイダ・ピンケット・スミス、ウィル・スミス、ジェームズ・ラセター、Ｍ・ナイト・シャマラン
サイファ・レイジ（人類のカリスマ的な戦士）／ウィル・スミス
キタイ・レイジ（サイファの息子）／ジェイデン・スミス
レイナ（キタイの姉）／イザベル・ファーマン
センシ・レイジ／ゾーイ・イザベラ・クラヴィッツ
ファイア・レイジ（サイファの妻）／ソフィー・オコネドー
２０１３年・アメリカ映画・１００分
配給／ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

＜あちらは６０年後、こちらは１０００年後の地球！＞

６月１２日の試写で観た本作は、「６月１０日現在９週目で世界興行収入１億９，０００万ドルになる『オブリビオン』（１３年）の同テリトリー比較の初登場週末興行収入４，５００万ドルを超え、本作の最終世界興行収入は２億ドルを超えると期待され」ているらしい。トム・クルーズが主演した近未来の「ＳＦモノ」である『オブリビオン』は６０年後の地球が舞台で、クローン人間が大きな役割を果たしていたが、ウィル・スミスとジェイデン・スミスの父子が共演した本作は２０７１年に人類が逃げ出してから１０００年後の地球が舞台。もっとも、地球に人間が住めなくなる「近未来」の時期については、『オブリビオン』が６０年後の２０７３年なら、本作は２０７１年だから、ほぼ同じような設定だ。

ただ、本作は悪化の一途をたどる環境破壊によって６艦の「ノアの箱船」に乗った７５万人の人類が地球を去っていく時の物語ではなく、それからさらに１０００年後の地球を舞台とした物語になる。人類は２０７１年から１００年間の旅を経て安住の地、惑星ノヴァ・プライムに辿り着いたものの、そこでも異星種との戦い、さらに異星種が送り込んできた「アーサ」という生命体との戦いに苦しんでいた。そんな中、サイファ・レイジ（ウィル・スミス）が「アーサ」と戦うためのプライム軍ユナイテッド・レンジャーのリーダーになったのは、なぜ？そこらは、本作冒頭に要領よく説明されるから、それを聞けば十分だ。また、ストーリー展開も『オブリビオン』ほどややこしくなく、たまたまサイファと彼の長男キタイ・レイジ（ジェイデン・スミス）が、訓練用に捕獲した一匹の「アーサ」とともに共に乗り込んだ宇宙船ヘスパー号が、嵐に巻き込まれて不時着したのが１０００年後の地球だったということだから、わかりやすい。

さあ、『オブリビオン』は今から６０年後の地球、本作は２０７１年から１０００年後の３０７１年の地球が舞台だが、そんな地球に不時着し、生き残ったサイファとキタイはノヴァ・プライムへの返還のためにいかなる行動を？ヘスパー号の中にいた一匹の「アーサ」がもし生きていたら、２人の危険度は？

＜意外にも、あのＭ・ナイト・シャマラン監督を起用！＞

『幸せのちから』（０６年）で初の父子共演を果たしたウィル・スミス（『シネマルーム１３』２５７頁参照）が、二匹目の「柳の下のどじょう」を狙ったのは当然。本作のアイデアが生まれたのは、父子間の何気ない会話だったらしい。もっとも、この程度のアイデアなら私でも容易に思いつく（？）が、問題はその程度の「原案」を、誰がいかに脚色し、誰がいかに演出・監督するかということだ。そこで、本作のプロデューサーも務めているウィル・スミスが脚本の執筆を依頼したのがゲイリー・ウィッタなら、監督は意外にもインド生まれのＭ・ナイト・シャマラン監督だった。

彼は『シックス・センス』（９９年）でセンセーショナルを巻き起こしたものの、その後は『サイン』（０２年）（『シネマルーム２』２３７頁参照）、『ヴィレッジ』（０４年）（『シネマルーム６』３１０頁参照）、『レディ・イン・ザ・ウォーター』（０６年）（『シネマルーム１２』７２頁参照）、『ハプニング』（０８年）（『シネマルーム２１』２９１頁参照）など似たような作品ばかりで、少し飽きられていた。彼の作品の売り文句は「絶対にタネ明かしをしないでください」だったから、ＳＦものとはいえ「父子の絆」をテーマとした単純明快な本作は、これまでの彼の作品とは全く異質だ。１０００年後の地球に不時着したキタイの姿から始まる本作が少しややこしいのは、キタイの記憶の中で姉のレイナ（イザベル・ファーマン）と一緒にいるところを「アーサ」に襲われ、レイナが死んでいくのを助けることができなかったというキタイの回想シーンが時々登場するくらいだから、従来のシャマラン監督流のやり方は完全に封印されている。したがって、本作に「シャマラン監督効果」を期待するのは筋違いだが、本作における彼のそんな変身（？）が、さて吉と出るか、凶と出るか・・・？

＜テーマは単純、「父と子の絆」！＞

ジャッキー・チェンがウィル・スミスの息子ジェイデン・スミスを主人公とし、自らはその引き立て役に徹した『ベスト・キッド』（１０年）のテーマは、カンフーをめぐる師弟愛だった（『シネマルーム２５』未掲載）。その撮影風景の楽しさに、思わず「俺が父親だぞ！」とジェラシーを感じてしまったウィル・スミスは、「だから、父子共演を果たせる企画を」と考え、本作をプロデュースするとともに、父子共演したわけだ。

父親は、周りのすべての人たちから尊敬されているプライム軍ユナイテッド・レンジャーの総司令官。ところが、キタイは運動能力こそ人より秀でているものの、冷静さを欠く一面があると評価されたため、レンジャーズ候補生から昇格できなかったから、ショックを受けたのは当然。そんなキタイが父親とうまく接することができなくなっている現状を心配したサイファの妻ファイア・レイジ（ソフィー・オコネドー）は、サイファに対して今キタイが期待しているのは「上官ではなく、父親だ」とお説教したが、さてその言葉をサイファはどのように理解したの？サイファがヘスパー号に乗っての宇宙への遠征への旅にキタイを同行させたのは、その旅の中で息子と真摯に対峙しようとしたためだから、キタイもそのことを喜んだが、ヘスパー号内におけるキタイの行動を見ていると、やはりイマイチ。やっぱり、まだまだ子供で、所詮レンジャーズ候補生・・・？

＜キタイの任務は？二人三脚でのその達成は？＞

本作は『オブリビオン』と同じＳＦ大作（？）であるにもかかわらず、１００分と手頃な長さに収まっている。それができたのは、１０００年後の地球というＳＦ的要素はあくまで舞台設定上のことと割り切り、ヘスパー号が不時着して偶然戻ってきた１０００年後の地球におけるキタイの任務と、サイファとの二人三脚でのその達成、そして、その中にみる「父子の絆」というテーマに本作のすべてを集中したためだ。１０００年前に地球を脱出せざるを得ない原因となった、異星種のアーサは今でもまだ地球にうじゃうじゃ存在しているの？そうでなくても、ヘスパー号に訓練用に積み込んでいた一匹のアーサが、サイファやキタイのように不時着の中でも生存しているとしたら、恐怖心をコントロールできるため絶対にアーサに発見されることのないサイファはともかく、そんな神通力を持ち合わせていないキタイの方は・・・？

不時着の際に両足を骨折してしまったサイファに代わって、かすり傷で済んだキタイが担う任務は、１００ｋｍ先に墜落した船尾部分まで行って予備の緊急シグナル「ビーコン」を探し出し、これをプライム星へ発信して救援隊を要請すること。キタイの行動をコントロールし命令を下すのは、宇宙船の映像システムを駆使してキタイの行動をモニターするサイファの役目だが、さて通信器を持ったキタイはサイファの期待どおり冷静沈着に行動できるの？もし、血気にはやって変な行動を取ったら・・・？

１人ヘスパー号の外に出たキタイが見た地球の姿は１０００年前とは大きく変わっていたから、キタイの任務の前に待ち構えている危険はいろいろだ。サイファはキタイに対して「危険は存在する。しかし、恐怖は自分の中にしかない」と訓示し、アーサと出会うことになった場合、自分の心の中に生まれるであろう恐怖心を消すことの重要性を強調したが、さて、そんな父親の言葉をキタイはどう受け止め、どういう行動をするの・・・？本作のクライマックスに見る、キタイとアーサとの対決の中で浮かび上がってくる真の「勇者の血」を確認すると共に、「父子の絆」という本作のテーマを、不安が充満する今日的時代状況の中でしっかりと味わいたい。

２０１３（平成２５）年６月１７日記